

現総合戦略から第2期戦略プランへの施策の方向性等の引き継ぎ状況（その1）

現総合戦略の基本目標と数値目標

I つくばの特性をいかした
産業競争力の強化でしごとをつくる

【基本的方向】

筑波研究学園都市に集積する最先端の科学技術等から新たな産業をつくり、地域経済の活性化を図るとともに、首都圏や成田国際空港からの近接性、つくばエクスプレス、首都圏中央連絡自動車道等の交通インフラの充実、豊かな農産物や自然環境などのつくばの持つポテンシャルをいかし、関係機関と連携して農業や商工業などの産業競争力の強化を図ります。

また、つくば発イノベーションを実現することのできる人材を育成するとともに、市内の若者、女性等の雇用や起業しやすい環境を整備し、地域産業等を支える人材をいかした取組を進めます。

これらの包括的な取組を通じて、国内外から企業や人材、投資等呼び込み、地域循環型産業等の創出・育成・誘致を推進することで、地域経済を活性化し、雇用の創出を図ります。

数値目標	現況	目標値	R1進捗状況
新規正規就職者数の増加	2,325人 (平成22～26年度)	2,620人 (平成27～31年度)	2,884人 順調
新規創業数	-	180件 (平成27～31年度)	397件 順調

第2期戦略プランで主に引き継ぐ施策と指標の例

IV-1 知識集約によりイノベーションを創出する

【方向性】

地域や社会のニーズを踏まえ、研究者・市内事業者等と解決すべき社会課題を共有するために、外部組織や庁内部署等とのコーディネート支援を行います。

また、イノベーション創出に向け、人材が組織の垣根を超えて交流する機会をつくるとともに、国の制度等を活用した規制緩和を検討しつつ、研究成果等の社会実装に向けた仕組みを構築し、新たな産業が次々に生まれるまちを実現します。

指標	現状値	目標値
技術系の 新規創業者数	40件 (2014～18年度)	50件 (2020～24年度)

IV-2 地元で頑張る組織や人が成長し続けるまちをつくる

【方向性】

業者等の業態に応じ、伴走しつつきめ細やかに支援する仕組みをつくるとともに、地域の中核となる企業の育成や誘致に取り組みます。また、新しいチャレンジを行う事業者等を支援する仕組みをつくり、ビジネスをしやすい環境を構築し、若手人材にも魅力があり、活力のあるまちをつくります。

指標	現状値	目標値
新規創業に伴う 新規就職者数	-	390人 (2020～24年度)

基本的方向は、主に目指すまちの姿「IV市民のために科学技術をいかすまち」に引き継ぐ。進捗状況は「順調」であることから、方向性を維持し、イノベーション創出に向けた人材の交流と研究成果等の社会実装に向けた仕組みづくりを進める。また、新研究シーズを産業創出につなげるとともに、地域を支える産業人材の確保と新しいチャレンジを行う事業者等の仕組みをつくることで持続的な成長モデルの実現を目指す。課題である、ニーズにマッチした雇用の確保や創業希望者等への幅広い支援については、個別施策で対応を図っている。

指標は、企業の人材確保と創業支援策の双方の効果や社会実装推進の成果を測定できる「新規創業に伴う新規就職者数」や「技術系の新規創業数」とする。

現総合戦略から第2期戦略プランへの施策の方向性等の引き継ぎ状況（その2）

現総合戦略の基本目標と数値目標

II 結婚し、子どもを産み・育て、健康に生活できる環境をつくる

【基本的方向】

結婚・妊娠・出産・子育てのしやすい地域づくりに向けた環境及び充実した教育環境を整備するとともに、切れ目のない支援や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の確保により、出生数の増加を目指します。

さらに、すべての世代に健康で安心して生活できる環境の提供や、高齢者になっても健康で生きがいを持てる社会を実現するための各種介護予防事業の実施により、地域活動等の担い手の確保や雇用の促進を図るとともに、将来の介護保険給付費の抑制や医療費の削減につなげていきます。

数値目標	現況	目標値	R1進捗状況
合計特殊出生率の向上	1.43 (平成26年度)	1.55 (平成31年度)	1.46人 やや遅れ
保育所の待機児童数	104人 (平成26年度)	0人 (平成31年度)	131人(H30) やや遅れ

第2期戦略プランで主に引き継ぐ施策と指標の例

III-1 こどもも親も楽しく育つ環境をつくる

【方向性】

こどもも親も楽しく育つために、保育環境を整備するとともに、子育ての悩みを家族で抱え込まず一貫して相談できる体制を整備します。また、年齢にとらわれず遊べる場所を設置することで多世代交流の場をつくり、特技や能力をいかし誰もが居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合う場をつくりま。

指標	現状値	目標値
安心して子どもを産み育てられる環境か	59.1% (2019年度)	70.0% (2024年度)

III-1-② ニーズに対応した子育て環境の整備

【方向性】

親のニーズに合わせた保育施設を拡充することを目的として、ニーズに柔軟に対応できるように保育施設や一時預かり施設・事業などの子育て環境を整備します。また、質の高い保育を維持するために保育士の処遇改善等を行い保育士を確保します。

指標	現状値	目標値
待機児童の割合	131人 1.9% (2019年度)	0% (2024年度)

基本的方向は、主に目指すまちの姿「III未来をつくる人が育つまち」に引き継ぐ。進捗状況が「やや遅れ」になっていることから、ボトルネック・課題を再検討した。保育・教育環境を整備することに加え、悩みを相談できる体制や年齢にとらわれず遊べる場所をつながり支え合う場をつくることにより、親子が一緒に楽しみながら成長できる環境を目指す。課題である、周辺地区の子育て環境の充実や保育需要への対応については、個別施策で定める公園や交流センターの再整備等で利便性・魅力度を高めることや施設整備補助、保育士の処遇改善等の対応を行う。

指標は、子育てを楽しめる環境が整っていることや保育施設の整備状況を測るため、「安心して子どもを産み育てられる環境とを感じる人の割合」や「待機児童の割合」とする。

現総合戦略から第2期戦略プランへの施策の方向性等の引き継ぎ状況 (その3)

現総合戦略の基本目標と数値目標

Ⅲ 交流・居住環境を高め、
つくばにひとを呼び・ひとを留める

【基本的方向】

つくば市においては、全体的に転入超過の傾向が続いていますが、東京圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)への転出は超過傾向にあることに加え、20代前半の大学卒業世代の転出が突出していることが特徴となっています。市外からひとを呼び、市内にひとを留めるとともに、転出してしまった若い世代も子育て期を迎えた頃には、つくばに戻ってこられるよう、魅力的な交流・居住環境を創出し、つくばに集い、つくばを好きになり・選んでもらう施策を推進します。

数値目標	現況	目標値	R1進捗状況
東京圏からつくば市内への年間転入者数	3,843人 (平成26年度)	4,692人 (平成31年度)	4,593人 概ね順調
若者の年間転出者の増加数抑制	5,713人 (平成26年度)	6,133人 (平成31年度)	6,166人 概ね順調



第2期戦略プランで主に引き継ぐ施策と指標の例

I-3-② 地域資源をいかした持続的な周辺市街地の振興

【方向性】

少子高齢化や地域コミュニティの活力低下などが進行する周辺市街地は、かつてはそれぞれの地域の身近な生活の拠点であったことから、その生活の影響圏にある地域の生活環境や魅力の向上に繋げることを目的として、地域住民等が主体となって、それぞれの地域ならではの資源をいかした地域振興を行います。

指標	現状値	目標値
新たな地域づくりのアイデア提案件数	16件 (2018年度)	32件 (2024年度)

I-4 シティプロモーションを推進する

【方向性】

まち全体で考えると、つくばエクスプレス沿線地域や研究学園都市地域では人口が増加傾向にありますが、周辺地域では減少傾向であるため周辺地域への人の流れを作り出すことも必要です。シティプロモーションを推進することで、つくば市を世界中から人を惹きつける魅力的なまちに成長させていきます。

指標	現状値	目標値
市に愛着がある人の割合	35.4% (2018年度)	38.9% (2024年度)

基本的方向を、主に目指すまちの姿「魅力をみんなで創るまち」に引き継ぐ。進捗状況は「概ね順調」であることから、方向性を維持し、研究学園都市地域、周辺市街地の双方の地域の魅力を高めるとともに、市内外に対してつくばの魅力を発信し、つくばに愛着を持つ人を増やすことを目指す。課題である周辺地域へ人の流れを生み出すことや若者の地域定着については、個別施策で地域が主体になった共創のまちづくり体制の構築推進による周辺市街地の地域資源をいかした地域振興やつくばの魅力発信によるブランドイメージの向上を図ること等で対応する。中心市街地やTX沿線地域をつなぐ双方向のヒト・モノ・コト・カネの流れを生み出すことや愛着を持つ人を増やすことで、市内外の応援する気持ちをつなげ、関係人口の創出や移住定住の促進を目指す。

指標については、住み続けることや転出後も関係人口としてつながりを持ち続けることを測るため、「新たな地域づくりのアイデア提案件数」や「愛着がある人の割合」とする。

現総合戦略から第2期戦略プランへの施策の方向性等の引き継ぎ状況（その4）

現総合戦略の基本目標と数値目標

IV 公共交通網で結ばれた
安全で安心な地域をつくる

【基本的方向】

つくば市には、筑波研究学園都市の中心地区として開発された研究学園地区、旧町村の既存市街地、つくばエクスプレス沿線の開発地域があり、つくばエクスプレスの開業や、首都圏中央連絡自動車道の供用開始によって、既存の都市構造から変化が生じています。そのような中で、「まち」の活力を向上させるために、都市機能が集積する中心拠点（ハブ）やつくばエクスプレス沿線地区と、周辺地区の拠点となるエリア（地域生活拠点）とを公共交通ネットワークで接続し、人々の日常生活の充実を図ります。

また、急速な少子高齢化の進行、東日本大震災等を契機とした安全・安心に対するニーズの高まり等、社会情勢の変化に対応するため、区会や市民団体などとの協働や、自助・共助・公助の連携により、災害や犯罪などへの対応力を高めていくことで、安全で安心な地域を構築します。

これらの施策を総合的に展開し、市民の日常生活の安全や利便性の向上を図り、活力のある成熟した地域づくりを目指します。

数値目標	現況	目標値	R1進捗状況
つくバス利用者数	888,032人 (平成26年度)	1,069,739人 (平成31年度)	1,009,000人 概ね順調
まちなか居住人口	88,477人 (平成26年10月)	106,023人 (平成31年10月)	107,904人 概ね順調
まちなか人口密度	36.13人/ha (平成26年10月)	43.29人/ha (平成31年10月)	44.54人/ha 概ね順調



第2期戦略プランで主に引き継ぐ施策と指標の例

II-5-① まちづくりを支える公共交通ネットワークの構築

【方向性】

つくばエクスプレスを軸に、都市内交通を充実させます。また、つくば駅を結節点の核とした近隣自治体や東京方面との広域連携を支えるバスネットワークの充実を図るとともに、つくばエクスプレスの利便性向上のため、関係機関と連携していきます。これらの取組により、まちづくりを支える公共交通ネットワークを構築します。

公共交通利用時の乗り継ぎ抵抗の低減等の利用促進や交通渋滞緩和対策の施策として、MaaS等の移動サービスの活用を検討し、自転車など公共交通以外の移動手段を含めたモビリティ・マネジメント事業を推進します

指標	現状値	目標値
つくバス利用者数	1,052,988人 (2018年度)	1,053,000人 (2024年度)

II-3 地域や市民一人ひとりの防災・防犯への備えを後押しする

【方向性】

地域や市民が防災や防犯への理解を深め、備えを進めていきます。

指標	現状値	目標値
地域住民が行う防犯活動への参加割合	15.8% (2019年度)	17.4% (2024年度)

基本的方向を、主に新たな目指すまちの姿「誰もが自分らしく生きるまち」に引き継ぐ。進捗状況は「概ね順調」であることから、ハブ&スポークの考え方のもと方向性は維持する。個人と公共の枠を超え、自分のライフスタイルに合わせて組み合わせられる交通システムにより誰もが自由にストレスなく移動できることや、地域で連携しながら防災・防犯の取組や教育を行い、地域や市民が防災や防犯への理解を深め、備えを進めることを目指す。

指標は、公共交通ネットワークづくりや地域と市民の防災や防犯への意識の向上を測るため、「つくバスの利用者数」や「地域住民が行う防犯活動への参加割合」とする。

第1期総合戦略・第2期戦略プラン対応表

第1期総合戦略における基本目 第2期戦略プランに おける基本施策個別施策	I つくばの特性を いかした産業競 争力の強化でし ごとをつくる	II 結婚し、子ども を産み、育て、健 康に生活できる 環境をつくる	III 交流・居住環境 の魅力を高め、 つくばにひとを 呼び・ひとを留	IV 公共交通で結ば れた安全で安心 な地域をつくる
I-1 市民と共に創るまちづくりを推進する ①地域活動と市民チャレンジへの支援 ②区会加入及び新規区会設立促進と活動支援 ③市政への市民参加の推進 ④SDGs普及による市民活動の促進		●		● ● ●
I-2 資源をみがき、魅力あふれるまちをつくる ①豊かな農資源を輝かせることによる魅力の創出 ②豊かな資源をいかした観光の振興 ③文化芸術の推進及び文化財の保存と活用 ④スポーツでつながるまちの推進 ⑤空き家・空き店舗等の有効活用の推進	●		● ● ● ● ●	
I-3 つくばならではの街並みや体験を創出する ①魅力ある研究学園都市地域の推進 ②地域資源をいかした持続的な周辺市街地の振興			● ●	
I-4 シナリオビジョンを推進する ①市民目線の効果的な広報の推進 ②市内外へ向けたPRの推進			● ●	
II-1 地域が支え合い、医療、介護、福祉が充実したまちをつくる ①世代や分野を超えた地域の居場所づくりの拡充 ②民生委員等のサポート強化と次世代の育成 ③認知機能低下等の支援策情報発信と相談体制の充実 ④地域で安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実 ⑤障害者の自立に向けた就労等の支援		● ● ● ● ● ●		●
II-2 人生100年時代に生いきいきと暮らせるまちをつくる ①一人ひとりのところと体の健康づくりの支援 ②誰もがつながり役割を持てる社会参加の環境整備		● ●		●
II-3 地域や市民一人ひとりの防災・防犯への備えを後押しする ①市の備蓄の推進や公共施設の機能維持 ②自宅の安全・備蓄対策や地域での支えあいの推進 ③防犯意識を高め、安全・安心を実感できる生活環境づくり				● ● ●
II-4 公共施設やインフラのマネジメントを推進する ①公共施設・インフラの効果的な維持管理の推進 ②保有資産の有効活用の推進 ③保有資産の適正化 ④公共施設やインフラ管理への先端技術等の導入			● ● ● ●	●
II-5 多様な移動手段があるまちをつくる ①まちづくりを支える公共交通ネットワークの構築 ②自動車から自転車への転換の推進				● ●
II-6 身近な自然を守り、楽しみ、持続させる ①身近な自然を楽しむ環境づくり ②自発的な保全活動の推進				

第1期総合戦略における基本目標 第2期戦略プランに おける基本施策個別施策	I つくばの特性を いかした産業競 争力の強化でし ごとをつくる	II 結婚し、子ども を産み・育て、健 康に生活できる 環境をつくる	III 交流・居住環境 の魅力を高め、 つくばにひとを 呼び・ひとを留	IV 公共交通で結ば れた安全で安心 な地域をつくる
III-1 子ども親も楽しく育つ環境をつくる ①子どもを安心して生み育てられる環境整備 ②ニーズに対応した子育て環境の整備 ③子ども親も楽しめる遊べる場の整備		<ul style="list-style-type: none"> ● ● ● 		
III-2 個性を伸ばし未来を切り拓く力を育む ①個性を伸ばし未来を切り拓く力を育む学校教育の創出 ②魅力ある放課後の創出 ③就学前における子どもの学びの充実		<ul style="list-style-type: none"> ● ● ● 		
III-3 多様性をいかした誰もが活躍できる社会をつくる ①多様性をいかした社会の推進		<ul style="list-style-type: none"> ● 	<ul style="list-style-type: none"> ● 	
IV-1 知識集約によってイノベーションを創出する ①新たな共創の仕組みづくり ②社会実装の推進によるイノベーション創出	<ul style="list-style-type: none"> ● ● 			
IV-2 地元で頑張る組織や人が成長し続けるまちをつくる ①地域産業人材の確保・定着の推進 ②地元企業等の新たなチャレンジの支援	<ul style="list-style-type: none"> ● ● 			
IV-3 市民のために新たな技術や価値を導入し、進化するまちをつくる ①人とテクノロジーが共生するスマートシティの推進 ②データで市民を豊かにするまちの推進 ③書かない・待たない・行かないデジタル窓口の推進				
IV-4 地球に優しくごみのない低炭素で循環型のまちをつくる ①食品ロス削減に向けた意識啓発 ②再資源化、再利用化の推進 ③環境美化活動の推進 ④低炭素化の推進			<ul style="list-style-type: none"> ● ● 	<ul style="list-style-type: none"> ●